

ヴ

エネチア・ピエンナーレ国際美術展2009を見学

した帰りに、フランクフルトでストップオーバーをして、ドイツ建築博物館を訪れた。カタログに寄稿した手塚貴晴+由比の展覧会に立ち寄るためである。

こうした施設や主要な美術館では、たいがい建築ガイドを販売しており、それを購入して、街歩きを行なう。三度目のフランクフルトだったが、さまざま新しい発見があった。そもそも観光旅行は必然的に有名建築を訪れることとほぼ重なるのだが、建築ガイドにはもともとマイナーな物件も掲載されている。

一方で、まだガイドに掲載されていない最新の建築と偶然に出会うのも嬉しい。今回は歩行者でにぎわうツァイル通りで、びっくりするような大型のショッピングセンターに遭遇した。全面ガラス張りのファサードなのだが、中央がめりこんでいる。しかも、ただ凹んでいるわけではなく、穴が建築を貫通してお

り、向こうに空が見えるのだ。ここまで大胆にかたちをねじ曲げたデザインはただ者ではないと思ひ、内部に入る。やはり、吹き抜けでは、天井から大きなガラスのチューブが降りて、床を激しく突き刺す。

あとで調べると、このショッピングセンターを含む複合施設「My Zeil」を設計したのは、イタリアの建築家マッシミリアーノ・フクサスで、2009年2月に商業エリアがオープンしたという。感心させられるのは、建物が孤立せず、まわりの街路をつないでいることだ。いわば、巨大なガラスのパサージュなのである。

内部と外部が相互貫入する、ねじれた形態もさることながら、太陽光が全面に降りそそぐガラス建築ゆえに、室内でありながら、屋外のストリートのような空間の感覚を体験できる。おそらく、ここはフランクフルトの新名所となるだろう。

続いて、ノーマン・フォスタ

ーの手がけたコメルツ銀行の本社（1997年）も見学した。空調システムの工夫により、エコロジーにも配慮したハイテクのビルである。もともと、歩きながら感心したのは、これが都市に埋め込まれた建築であるという

こと。これも複数の街路と接し、歩行者に自由な通り抜けを許している。都市を縫う建築なのだ。日本のビルは孤立しがちで、たとえ広場を設けても、ほとんど活用されない。都市の空間組織と分ちがたく建築を成立させることにおいて、ヨーロッパから学ぶことは多い。☺

都市を縫う、 フランクフルトの建築

@Frankfurt



ドイツのフランクフルトにある複合施設「My Zeil」。マッシミリアーノ・フクサスの設計 写真提供：筆者

をちこち散歩

五十嵐太郎

いがらしたろう
建築史家
東北大学准教授